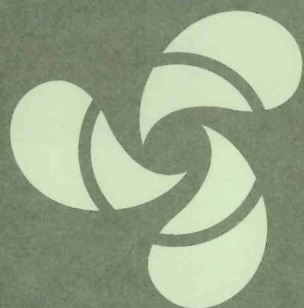


2017年7月25日

Vol.108



minmin

みみ
んん

「題字」谷川俊太郎さん
俊

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター ニュースレター

目次

- P1…… 巻頭言 社会課題解決に向け共に歩む 理事 土佐 昭一郎
- P2～3 第19回通常総会を終えて
- P4～5 各事業所からの報告・告知
サポートセンター運営支援
- P6…… 本部事務局からの報告
- P7…… 事務局日誌／新スタッフ紹介
- P8…… インフォメーション

巻頭言

社会課題解決に向け共に歩む

理事 土佐 昭一郎

2008年、私がNPO法人ミヤギユースセンターを立ち上げてから7年目、せんだい・みやぎNPOセンター10周年企画で加藤哲夫さん、大村虔一さんとお話しする機会を頂いた。お二人から「近い将来、必ず必要とされる活動だから大変かもしれないが続けなさい」と言葉を頂き、継続と急速に変化する社会ニーズへの即応を念頭に活動してきた。最近になってようやくお二人の言葉の重みを感じている。

今年当センターは20周年を迎えるが、自然災害、少子高齢化、教育問題、環境問題など解決が難しい問題が山積し、人々の生活も価値観も多様化しつつある。多様化する社会にあつて、必要な情報を収集し、アイデアを出し合い、議論、協議を重ねて社会課題解決に取り組むという人々も増えている。社会の変化に即応出来るのも市民活動の特性であると思う。課題解決に向けて共に歩み続けていきたいと願っている。



第19回通常総会を終えて

2017年6月17日(土)、みやぎNPOプラザ第1会議室にて第19回通常総会を開催しました。会計年度の変更により、例年とは異なる時期の開催となりましたが、当日は正会員77名中出席13名、委任状提出31名、書面表決4名、合計48名で定款22条に定める定足数を満たし、総会は成立しました。

●議事進行と概要について

議事は高橋由佳理事の司会により、式次第に従って進められました。議長には渡辺一馬理事を選出。総会の成立についても、上記の通り会員の過半数をもって確認されました。引き続き、議事録署名人として真壁さおり、相馬潤子の両氏を選出した後、予定通り議案審議へと進みました。

議案は以下のとおりで、審議を経ていずれも承認・議決されました。

第1号議案 2016年度の事業報告書(案)および決算報告書(案)の承認

第2号議案 2017年度の事業計画書(案)および収支予算書(案)の審議・決定

●第1号議案

大滝精一代表理事は、2016年度の総括と成果として、会計年度の変更(期首4月1日～期末3月31日)に伴い、事業と決算の報告対象期間が2016年7月1日～2017年3月31日と変則的になっていることや、本部管理体制の強化、事務局の移転、契約会計事務所の変更などの説明をしました。また、懸案となっていた認定NPO法人の手続きは確実に進んでいること、さらに事業活動については、「地域公共人材の育成」「市民セクターの基盤形成」「セクター間の連携」の、いわゆる3つの柱の事業も順調であり、西松建設の基金による「なとりこどもファンド」も円滑に進められていることを報告しました。

仙台市民活動サポートセンター(以下SSC)、多賀城市市民活動サポートセンター(以下TSC)の管理運営をはじめ、岩沼市、柴田町の市民活動施設の運営支援についても、事業として一定の成果が得られたことも評価点として挙げました。

続いて、青木ユカリ事務局長から2016年度の事業報告



▲総会の様子

をしました。自治体の職員研修事業として、仙台市の職員研修と協働推進人材育成事業を担当し、中でも、協働推進人材育成事業の報告会には70名を超える職員と受入団体が参加し、情報交換が熱心に行われたことや、この事業が5年継続予定であることを報告しました。

また、「まち・むすび助成金」は11団体が事業を実施し、報告を受けている一方で、報告会や交流会が未実施のため、2017年度内での実施を予定していると説明しました。

その後、SSC、TSCそれぞれの管理運営について、SSCの太田センター長からは、特徴的なところとして「マチノワWEEK」事業の際には、セクターを越えた団体の共催で1,100名以上の参加者があり、多様な人々の出会いの場の提供という点で、一定の成果があったことを報告しました。

TSCの櫛田副センター長からは、相談対応については継続的なものが多いこと、事業については講座受講者の新たな取り組みの開始や、地域人材育成からのコミュニティ形成など、事後の動きがみられることを成果として報告しました。

続いて土佐昭一郎常務理事から2016年度決算について、経常収益は若干の予算超であることや、人件費は予算どおりで前年とほぼ同額になり、比較的安定した状況であることを報告しました。一方、会計事務所の変更に伴う費用増や、消費税、水道光熱費の読み違いなどが原因の赤

字が発生していることも説明しました。茂木宏友監事からは、会計処理一切は適切であるとの監査報告があり、拍手を以て承認されました。

質疑応答では、事業収入を一括記載ではなく、事業毎計上の扱いではどうかとの質問があり、新年度から対応したいと回答。また、事業費の内訳について、定款上の事業区分とされているが、事業名での区分のほうが分かり易いのではないかととの質問がありました。市民にとっての分かり易さから判断すべきではないかという趣旨の質問内容に対して、指導を受けての従来方式であったが、新年度には事業名での区分にしたいという回答をしました。

●第2号議案

大滝代表理事より2017年度の事業計画(案)及び収支予算書(案)について概要説明をしました。

2017年11月でせんだい・みやぎNPOセンター設立20周年を迎えることから、記念の企画(11月4日)を実施することや、SSC、TSCの管理運営、岩沼、柴田の施設運営支援も継続して行うことも報告しました。

また、SSCの調査研究事業のこれまでの成果を用いた実証実験の具体化や、創発のエンジンの始動、そしてTSCの地域の課題解決のための連携モデルづくりについても紹介しました。

続いて、青木事務局長から2017年度事業計画の提案説明をしました。冒頭、会計年度の変更に伴い、事業年度に

ついても2017年度が本格スタートになることから、安定した事業運営を目指す考えを示しました。

基本的には、他組織との協働型の事業展開によって、問題解決に向かうことに実感を持っているところで、そのためには対話が大切であり、プロセスを大事にしながらの事業展開を組みたてていきたい考えを示しました。また、組織の情報発信について、基盤整備が急務であると認識しており、20周年事業に向けても取り組みを急ぐことを表明しました。なお、故加藤哲夫氏の七回忌についても準備する旨報告しました。

最後に、2017年度の事業予算について土佐常務理事から提案しました。趣旨としては、税抜き予算での記載であること、ホームページの見直しと20周年事業の予算が計上されていることなど、別添資料を参考に説明しました。なお、第2号議案についての質疑応答はありませんでした。



▲会員の皆様にはスタッフを紹介しました。

茶話会

総会終了後は、茶話会を開き、総会に参加した方々と、お菓子とアイスコーヒーで歓談しました。

それぞれのスタッフが担当する施設の事業の話や、これまでのせんだい・みやぎNPOセンターでのキャリアの話、さらには終わったばかりの総会の振り返りのような話題になったり、まさに和気あいあいの交流の場となりました。



▲会員の方々の近況もうかがうことができました。

各事業所 からの 報告・告知

NPOの拠点を行政と協働運営

せんだい・みやぎNPOセンターでは、仙台市と多賀城市の市民活動サポートセンターの施設運営と、岩沼市、柴田町の施設運営支援を行っています。施設ごとに昨年度の成果と、今年度の展開を報告します。

仙台市市民活動サポートセンター 創発のエンジン始動へ

平成27年度から31年度の5年間の事業方針として、「3つのエンジンで市民力を育み、都市の力へとつなぐ」を掲げています。NPOなどのテーマ型コミュニティの自立・連携・創発を推進する3つのエンジンを構築し、かつ他機関との協力のもとに、多様な主体の協働によるまちづくりを推進します。

昨年度は、11月に4日間開催した「マチノワWEEK」事業で、セクターを越えた団体と8つの共催企画を実施。これまでに取り組んだ「地域機関との連携事業」や日常の情報交



▲実証実験に向けた対話の場「マチノワラボ」

換など丁寧な関係構築の成果が可視化される機会となりました。来館者は1,100名以上で、これまでの利用者だけでなく、何かしら市民活動やまちづくりへの思いを持って、サポートセンターに初めて来館した方も多くいました。その後、相談や貸室利用、事業参加に繋がっています。

今年度は、新たな芽の発掘と育成の成果の発信、調査研究事業のこれまでの成果を用いた実証実験の具体化を通じて、創発のエンジンを動かしていきます。

イチオシ事業

◎マチノワ縁日

～見て、触れて、楽しもう。まちづくりの出会いの広場～

108万人が暮らす仙台では、社会の課題解決や地域を元気にするための多種多様なアクションが展開されていま

す。マチノワ縁日では、市民活動団体、企業など12団体が展示やワークショップなどで自分たちの活動を発信します。さらに、サポートセンター主催の講座やトークイベントを開催。来館者や参加団体同士の縁を結びます。

日時:2017年7月29日(土)10:00～21:00

会場:仙台市市民活動サポートセンター

◎ぱれっと

仙台のまちをワクワクさせる人、協働によるまちづくりの事例を紹介しています。市民ライター講座受講生のみなさんとも連携しながら、多様な視点で市民活動について、市民に発信しています。バックナンバーはホームページからダウンロードできます。(松村 翔子)



多賀城市市民活動サポートセンター

様々な主体が協力して地域課題に取り組む

多賀城市市民活動サポートセンター(以下、TSC)は、今年度が3年間の業務委託期間の初年度です。この3年間では、特に以下の3つに力を入れていきます。

- ①地域の課題を解決する、地域の価値を創造するための様々な主体による連携の仕組みづくり
- ②地域づくりに関わる人材育成
- ③市民活動やTSCを知る市民の増加

具体的に、①については、昨年度行った町内会の調査や企業への訪問などで築いたつながりを活かし、今年度は市民・企業・行政・学校など各主体が連携して地域課題に取り組む場づくりをはじめます。

②については、昨年度に引き続き、市民が気軽にNPOにふれることができる場、「何かやりたい」「特技を活かしたい」

という方が想いを整理し形にする場、同じ立場の人同士が
 出会うことで活動に一歩ふみだす場をつくります。

③については、情報紙tagによって地域の活動を発信してい
 くとともに、市民自らが情報を発信していけるよう講座を
 実施します。

また、来年度は開館10周年を迎えます。これまでをふり
 かえりつつ、これからのまちのことについて、様々な立場の
 人たちが一緒に考えていく機会も設ける予定です。

イチオシ事業

◎NPOの絵本展

NPOが発行に携わる絵本を集めた展示です。昨年度は絵
 本に関するイベント、子どもたちが集まるイベントに出向き、
 多くの方にNPOの活動や社会課題にふれてもらうきっか
 けをつくりました。今年度も児童館のこどもまつりや多賀
 城跡あやめまつりに出展しました。



▲スタッフがよみかかせをしました。

◎tag

多賀城で活躍する人や団体の
 紹介、多賀城で活かそうな市
 外の事例、多賀城の地域課題、企
 業による地域貢献の取り組み、
 様々な主体による連携事例など
 を発信するフリーペーパーです。
 バックナンバーは、TSCの公式ウ
 ェブサイトからダウンロードで
 きます。 (櫛田 洋一)



サポートセンター運営支援

岩沼市市民活動サポートセンター

新施設の動き、これから

岩沼市市民活動サポートセンターの運営支援は今年で6
 年目になります。引き続き、月1回の活動相談会の相談員派

遣と、運営ミーティングでのアドバイス、市民向け講座を行
 っています。

市民向け講座では、6月16日(金)に「いつもと違った会議
 を考えてみよう」を実施しました。グループワークなどを通
 して、アイデアを出し合うブレインストーミングを体験し、
 会議で行っている工夫などを参加者同士が出し合いました。
 会議の参加者が少ないという悩みには、それぞれの団
 体から、「会議日程を毎月何曜日の何時と固定して、参加者
 に前もって予定を押さえてもらう」「忙しくて参加できない
 人の都合に合わせて日時を設定し、参加を促す」などの工
 夫が挙がりました。その他にも、「参加者同士がお互いに心
 を込めてお茶を入れ合う」といった会議の場を和やかにす
 る工夫など、様々な会議のアイデアが共有される場となり
 ました。

岩沼市では、現在、地域社会活動・地域コミュニティ形成
 支援施設検討委員会が設置され、市民活動や町内会活動な
 どを支援する施設の新設が検討されています。新施設の稼
 働も視野に、運営支援を続けていきます。 (太田 貴)

柴田町まちづくり推進センター

ゆる.ぷらスタッフのパワーアップをバックアップ

柴田町まちづくり推進センター(通称「ゆる.ぷら」)では
 2015年度から、せんだい・みやぎNPOセンターが運営支援
 を行っています。今年度は月3回、ゆる.ぷらスタッフに対す
 るアドバイスや研修、まちづくりに関する相談支援を行っ
 ています。

スタッフ研修では、まちづくりや市民活動の基礎の他、条
 例や住民アンケートの読み込み、事業の立案、相談対応の基
 礎、他施設見学など、支援施設スタッフとして基本的なスキ
 ルの習得ができる内容で進めています。

その他、柴田町内で活動している団体への訪問ヒアリン
 グも行い、柴田町でのまちづくり活動についての実態把握
 にも取り組みます。

「柴田町住民自治によるまちづくり基本条例」では、ゆる.
 ぷらの運営について、「住民等及び行政機関の協働によって
 進める」と明記されています。柴田町では、今後、ゆる.ぷら
 の運営を町の直営から、民間へ委託することも検討してい
 ます。民間への運営委託へ向けて、ゆる.ぷらの機能や事業
 の整理・改善を含めた運営支援を行っていきます。

(太田 貴)

本部事務局からの報告

2017年度の当センターの運営と事業についてご報告いたします。

民間公益活動を 促進するための休眠預金活用 に関する説明会の開催



2017年4月24日(月)、宮城県本町分庁舎において「民間公益活動を促進するための休眠預金活用に関する説明会」を認定NPO法人杜の伝言板ゆるる、宮城県との共催で開催しました。「休眠預金」は、10年以上入出金がない預金であり、NPOの新たな資金源として注目されています。

NPO法人、中間支援組織、社会福祉協議会、自治体のNPO担当職員など35名の参加がありました。内閣府休眠預金等活用担当室の中尾充さんより、法律の概要、指定活用団体と配分団体、今後のスケジュールについて説明がありました。

2016年12月に成立した「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律(休眠預金法)」により、2019年1月以降発生した休眠預金は、下記の3分野に準ずる民間公益活動に助成や融資などという形で活用されることとなります。助成など、開始されるのは2019年秋以降です。

【活用分野】

- ①子ども及び若者の支援に係る活動
- ②日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動
- ③地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動

この制度についてのホームページが公開されています。

http://www5.cao.go.jp/kyumin_yokin/index.html

(鈴木 美紀)

昨年度のふりかえりと今年度の活動方針

法人では、(1)人材育成、(2)市民セクターの基盤形成、(3)セクター間の連携の取り組み、という活動の3本柱に掲げ活動しています。昨年度は、決算期を6月末から3月末に変更したことにより、9ヶ月という短期間ながら、本部の移転、組織体制の再構築、財政基盤の安定化を第一に活動してきました。活動の3本柱については、理事とスタッフとの意思疎通を課題の一つと捉え、コミュニケーションを取ってきました。

今年度は、昨年度を踏まえ、一層スタッフとのコミュニケーションを大切にしながら、組織基盤の強化と財政の透明化に努めて活動を行います。また、課題であるホームページの改善と団体案内ツールの作成にも取り組みます。

1.人材育成

スタッフの情報収集力(聴く力と有効な情報収集)と発信力の底上げを図ります。法人スタッフの強化が地域公共人材の育成に寄与できる近道だと思います。広く一般には、仙台市市民活動サポートセンター、多賀城市市民活動サポートセンター、岩沼市、柴田町で実施する相談会、セミナーも行います。さらには、仙台市と協働のNPO留学にて市職員のNPO体験も継続することになりました。

2.市民セクターの基盤作り/3.セクター間の連携

震災復興支援も地元力が試される状況にある現状を鑑みて、今まで以上に県内各地で活動するNPOをはじめ非営利組織との情報交換と連携、協働を図っていきます。また、ローカルグッド、ビッグデータの活用など、積極的に先進事例や実践例についての情報共有ができる場づくりを行います。以上、これらの活動を私たちが望む社会のために「共に考え、共に創る」を合い言葉に歩み進めます。

カタツムリな夕べ

～故加藤哲夫さんの七回忌を偲んで～

日時:2017年8月26日(土)16:00～20:00

※時間内入退出可能

場所:レストラン萩(仙台市青葉区一番町1-14)

参加費:4,000円

申込締切:2017年8月19日(土)

お問い合わせ:せんだい・みやぎNPOセンター青木

TEL:022-264-1281 E-mail:minmin@minmin.org

(土佐 昭一郎)

事務局日誌 (2017年3月～6月)

3月

- 8日 第24回みやぎ広域支援団体連携担当者会議
- 13日 JCN検証プロジェクト 被災地支援活動の評価のためのグループインタビュー
- 14日 管理職会議
- 15日 多賀城市との定例会議
- 22日 平成28年度第2回 宮城県民間非営利活動促進委員会
- 23日 第222回理事会
- 24日 地域創造基金さなぶり評議員会
- 27日 名取市協働助成事業報告会
- 30日 認定NPO法人申請受理、
仙台市協働まちづくり助成サポートチーム会議

4月

- 7日 NPO法人会計基準協議会
2017年度第1回世話団体会、CEO会議
- 8日 NPOの法制度等改革推進会議、CEO会議
- 12日 第25回みやぎ広域支援団体連携担当者会議
- 16日 自由民主党政務調査会 公益法人・NPO等特別委員会、なとりこどもファンド説明会
- 17日 仙台市との定例会議、管理職会議
- 18日 第223回理事会
- 19日 多賀城市との定例会議
- 24日 民間公益活動を促進するための
休眠預金活用に関する説明会
- 25日 仙台市との定例会議

- 26日 平成29年度第1回仙台市共同募金委員会理事会

5月

- 12日 第26回みやぎ広域支援団体連携担当者会議
- 13日 多賀城市市民活動サポートセンター事務ブース審査会
- 17日 多賀城市との定例会議
- 23日 みやぎNPOプラザ運営協議会、仙台市市民文化事業団理事会、日本NPO学会東北報告会
- 24日 第224回理事会
- 26日・31日 監査
- 29日 NPO法人会計基準協議会総会、NPOの法制度等改革推進会議総会、日本NPOセンター総会

6月

- 1日 2017年全労済地域貢献助成事業 北日本事業本部審査委員会、仙台市環境審議会
- 11日 杜の伝言板ゆるる
創立20周年記念式典・基調講演、祝賀会
- 13日 仙台市とのSSC機能強化に関する打合せ、
宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議総会
- 14日 第27回みやぎ広域支援団体連携担当者会議
- 17日 第19回通常総会
- 20日 管理職会議
- 21日 多賀城市との定例会議
- 22日 みやぎソーシャルビジネス支援ネットワーク会議
- 25日 なとりこどもファンドこども審査員研修会
- 26日 仙台市とのSSC機能強化に関する打合せ
- 28日 センター会議

新スタッフ紹介

小山田 昭雄 (おやまだ あきお) 配属先:仙台市市民活動サポートセンター

長年勤務した会社を7年前に早期退職して、「さて、次なる活動は!」と思っているときに未曾有の東日本大震災。自宅も津波による被害を受け、自宅の復興から取り組み、2016年8月から当センターでお世話になっています。今は、市民活動の手法などを学んでいるところです。巨理町民で、当センターでの活動が先々の地元の活動に役立てられればと思っています。みなさんよろしくお祈りします。

于 楽 (う らく) 配属先:仙台市市民活動サポートセンター

2017年4月より非常勤職員としてお世話になっております。東北大学の留学生で、中国から参りました。仙台国際センターの交流コーナーでもアルバイトとしてお手伝いしており、多文化共生や国際交流に関するボランティア活動等に取り組んでいます。まだ不慣れなところが多いかと思いますが、皆様のご指導を賜りながら頑張っていきたいと思っております。宜しくお願い致します。

山田 毅 (やまだ つよし) 配属先:多賀城市市民活動サポートセンター

現在たがさぼで非常勤をしています。他に東京の渋谷で毎年11月に開催している「超福祉展」の運営委員をしており、多様性のあるまちづくりに取り組んでいます。また、個人としては来年に法人設立を目指しており、宮城を日本・世界に誇れるダイバーシティな都市にしたいと思っております。みなさま何卒よろしくお祈りいたします。

佐々木 裕一 (ささき ゆういち) 配属先:多賀城市市民活動サポートセンター

今回、ご縁をいただき6月よりお世話になっております。元々は、「宮城県お父さんたちのネットワーク」に所属しており、学校を中心としたボランティア活動に参加をさせて頂いておりました。まだまだ分からないことも多く、戸惑うばかりです。今後は、みなさま方のご指導を頂き、一日も早くお役に立てる様、日々勉強を続けて行きたいと思っております。宜しくお願いいたします。

サポート・ご協力 ありがとうございます

(2016年6月11日～2017年3月31日、敬称略)

田中聡子、中野勇也、大滝精一、白川由利枝、紅邑晶子、八木健、(特活)多賀城市民スポーツクラブ、高島紗綾、山本朝美、白木福次郎、谷川俊太郎、(特活)みやぎ身体障害者サポートクラブ、(特活)いしのまきNPOセンター、(特活)杜の伝言板ゆるる、佐藤わか子、後藤美香、(特活)日本ファンドレイジング協会、(特活)でんでん宮城いきいきネットワーク、山岡義典、(特活)東北マンション管理組合、(特活)MIYAGI子どもネットワーク、(特活)山形の公益活動を応援する会アミル、茂木宏友、(特活)蔵王とブナと水を守る会、(特活)みやぎ発達障害サポートネット、(特活)麦の会、東北HIVコミュニケーションズ、鈴木美紀、CILたすけっと、(特活)あかねグループ、(特活)ミヤギユースセンター、小林正夫、中津涼子、富士ゼロックス宮城株式会社(カラーコピー機を社会貢献価格にて提供)

ご寄付ありがとうございます

(2016年6月11日～2017年3月31日、敬称略)

地主雅信、白木進、矢野由美子、門脇篤、森本菜穂子、森本恵介、深野せつ子、阿部恵、茄子川園子、伊藤一輝、守典子、後藤宗也、遣水桂子、吉田祐也、新田英理子、吉永裕通、高橋俊彦、青木仁、岡本穂乃香、瓜坂美穂、仁島麻理絵、中野愛美、木原光貴、谷口知弘、土井玖実子、仲舞子、服部亜希子、中川絵理、村上紗央里、稲垣達也、山田祥子、國分祐子、佐藤浩、馬場康尋、馬場朋子、吉野潤一、鈴木繁、鈴木美智子、小林明美、貫洞正一、吉田美夏、佐藤久美子、小野寺順子、公益財団法人浦上食品・食文化振興財団、他匿名

設立20周年記念事業

1997年11月にせんだい・みやぎNPOセンターが設立され、本年(2017年)で20年を迎えます。ささやかではありますが、式典と記念誌の作成を予定しています。詳細は追ってご案内させていただきます。

<式典>

日程:2017年11月4日(土)午後

会場:仙台市民活動サポートセンター 地下1階 市民活動シアター

<記念誌制作>

これまでの三部作を引き継ぎ『せんだい・みやぎNPOセンターの仕事』シリーズとして記念誌を作成します。

こちらは次年度にかけてじっくり取り組み、完成を目指します。

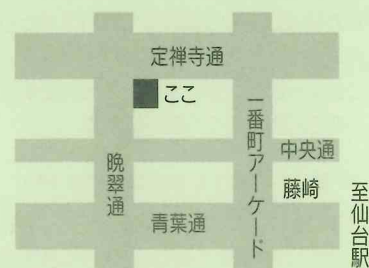
連絡先

特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
〒980-0803 仙台市青葉区国分町1-8-10 大和ビル4階
TEL:022-264-1281 FAX:022-264-1209
E-mail:minmin@minmin.org HP:http://www.minmin.org/

発行:特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事:大滝精一 編集部:せ・み広報チーム

発行日:2017年7月25日 デザイン:氏家朗



大和ビル4階 仙台駅から徒歩20～25分